

# 平成20年度病害虫発生予察注意報第1号

平成20年4月4日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

オオムギうどんこ病の発生が県中部を中心に多くなっています。今後の気温の上昇とともに本病の発生はさらに増加することが見込まれ、登熟への影響が懸念されます。被害を防ぐために、防除を徹底しましょう。

## 病害虫名：オオムギうどんこ病

- 1 対象作物 オオムギ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠

- (1) 4月2日現在、発生ほ場率は85.2%( 平年：13.8%)で、広範囲で発生している。とくに県中部では、大半のほ場が発病茎率100%に達しており、ほ場全体に発生が広がっている。また、現在、下位葉の発生が主体であるが、上位第2～3葉への病勢進展が始まっている。
- (2) オオムギの生育については、全体的に茎数がやや多く、過繁茂ほ場も散在しており、本病が発生しやすい状態となっている。
- (3) 3月28日発表の向こう1か月の気象予報によると、気温、降水量ともほぼ平年並と予想されていることから、今後、気温の上昇とともに上位葉への病勢進展が予想される。

## 5 防除上注意すべき事項

- (1) 本病の発生が上位葉、穂に拡大すると、登熟に影響し減収することから、多発生が予想されるほ場では、防除を徹底する。
- (2) オオムギの葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生する恐れがあるので、注意が必要である。
- (3) 平成20年度麦栽培指導指針などを参考にして、穂揃い期頃に薬剤防除を行う。なお、水和剤を使用する場合は展着剤を加用する。防除薬剤は、スミトップM粉剤(4kg/10a)、トップジンM水和剤(2,000倍)、チルト乳剤25(2,000～3,000倍)などである。
- (4) 農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。